

淡水魚増殖試験
モクズガニ種苗生産試験

後藤悦郎・森山 勝

材料及び方法

3月23日に抱卵している親ガニを1トンFRP水槽に収容してふ化を待った。親ガニ水槽で順次ふ化したゾエアは、ピーカーですくいとして飼育水槽に収容した。

幼生の飼育は、1トンFRP水槽5槽と2トンFRP水槽2槽を使用し、飼育途中で状況に応じて同型水槽への分槽や集槽を行った。飼育水は海水の3/4濃度として適時換水した。エアリフト式にて流動させ、幼生のパッチ形成や水槽底への落下を防止した。

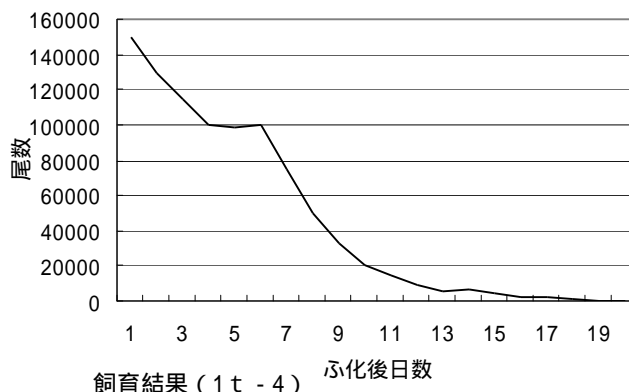
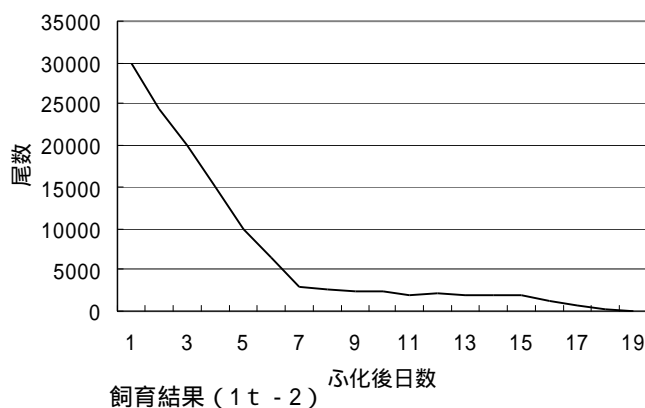
餌料はブラインシュリンプを主体に、シオミズツボワムシ及び甲殻類幼生用微粒子配合飼料等を投与した。

結果及び考察

飼育結果は表1と図1に示したとおりである。

表1 飼育結果

水槽NO	開始時		終了時				飼育水温			備考
	収容月日	尾数	終了月日	ふ化後日数	ステージ	尾数	MIN	MAX	AVE	
1t-2	4.13	30,000	5.1	19	-	0	15.1	21.0	19.6	全滅
1t-4	3.27	150,000	4.14	19	Z4	500	12.0	21.4	19.2	1t-6へ集槽
1t-5	3.24	200,000	5.1	39	C	100	10.0	22.1	20.6	Z2で1t-6と7へ分槽、Z4で1t-7へ集槽
1t-6	3.30	70,000	5.1	39	C	20	19.4	22.0	21.6	Z1で1t-5より分槽、Z4で1t-4より分槽
1t-7	4.2	50,000	4.12	20	Z4	2,000	20.5	21.9	21.2	Z2で1t-5より分槽、Z4で1t-5へ集槽
2t-2	4.7	150,000	5.9	35	C	400	11.5	22.1	19.5	
2t-4	3.24	40,000	5.1	39	M~C	1,500	10.3	22.0	17.3	ふ化後10日目から100W電照



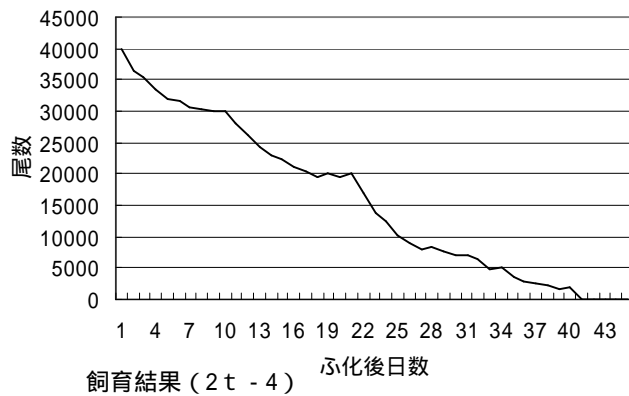
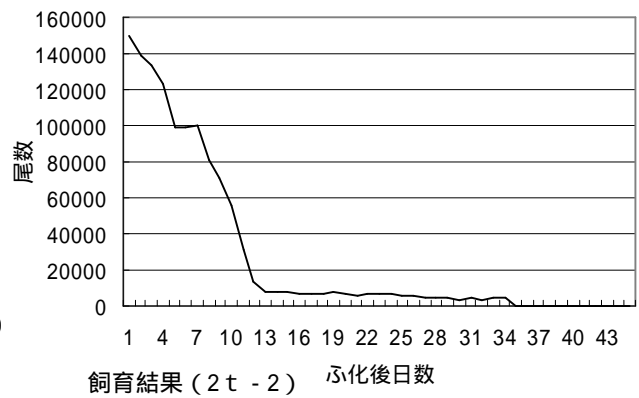
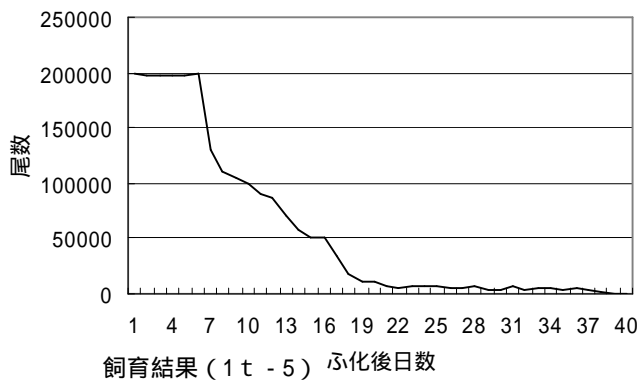


図1 飼育結果

今年度の飼育成績は不調であり、ゾエアの早期よりへい死が続き、飼育途中で全滅する水槽もあった。稚ガ二変態時の合計尾数は約 2000 尾であった。不調の原因としては、共食い、高密度飼育による飼育環境悪化、照度不足等が考えられるが、来年度以降も生産試験を行い原因を特定する必要がある。